

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3970400218
法人名	有限会社 青い鳥
事業所名	グループホーム 青い鳥
訪問調査日	平成 20 年 2 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

成 20年 2月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	3970400218		
法人名	有限会社 青い鳥		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地 (電話番号)	高知県南国市篠原708-1 (電話)088-864-1191		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成 20 年 1 月 18 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17(内兼務3)人, 非常勤 1 人, 常勤換算 16 人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~38,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(2 月 8 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 72 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	JA高知病院 海里マリン病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

トラック団地に隣接する広く見晴らしの良い敷地に、平屋建ての家庭的な雰囲気のホームが建っている。「入居者の基本的な人権が保護される支援」を理念の一つに掲げ、排泄、食事、入浴、睡眠等の日常生活を支援している。利用者の基本的人権を保護することは、利用者の尊厳を守ることであり、利用者の尊厳が守られているからこそ、それぞれの利用者が個性的に、自由に、寄り添い、支えあって暮していくことができている。また、近隣の農家からパプリカや食用菊の箱詰めを請負っており、僅かではあっても労働が収入に繋がり、生きがいともなっていることから、今後も継続して取り組まれることを期待したい。過去に3人を看取っており、利用者が安心して暮らすことのできる体制ができあがっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題は「アセスメント力の強化」など3項目があり、職員全員で検討し、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義等を理解した上で、2か月前から職員一人ひとりが自己評価を作成し、管理者が集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所から入居者の近況報告や行事の報告等行い、意見交換をしている。最近では、メンバーからの建設的な意見が出るようになっており、出された意見に対しては、真摯に対応している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会という形はとっていないが、各ユニットごとに家族が集まって食事を開き、4月には2ユニット合同の食事会も開いているが、苦情は出ていない。意見があれば、管理者が誠実に対応する体制にある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>トラック団地に隣接し、近隣に住宅は少ないが、夏祭りには地域の人たちが120人も参加して賑わうなど、人の往来はある。近隣の農家から、パプリカや食用菊の箱詰めを請負ったり、小学校の行事や地域の清掃(川干)に参加するなど、入居者は地域住民として認知されている。職員の半数が地域の住民で、その内消防団員が3人いるなど、職員も地域の中で生活し、役割を担っていることが、ホームが地域に溶け込み、認知されていることの一つの要因となっているのだろう。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	■事業所独自の理念がある。 □これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 地域に根差した活動は行っているが、地域密着型の理念はない。	○	ホームの運営基本方針に「地域を生活圏とし、地域の一員として暮らしていけるようにします。」という項目があるので、理念にも地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	■理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 朝礼で話し合うほか、ケアプラン立案時には理念を念頭に置き、プランの立案にあたっている。 ■日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 入居者の基本的人権を守るという理念を、排泄、食事、入浴等の日常生活のケアサービスの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	■地域住民の一員として、町会、自治会等に加入している。 ■リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域住民が120人も参加する夏祭り、小学校等の行事や地域の清掃(川干)への参加など、ホームが地域に溶け込んで活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。	■サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 評価の意義を理解した上で、職員一人ひとりが評価結果報告書を作成し、管理者が集約している。 ■評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 改善シートを作成し、課題の改善はしているが、改善までのプロセスも明らかにされたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>■会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>以前は意見が出にくかったが、最近は建設的な意見もあり、双方向的な会議になっている。</p> <p>■評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<p>■市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>管理者が南国市グループホーム連絡協議会の役員で、市と連携し、サービス向上に向けた企画や研修など交流は図れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	<p>■家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。</p> <p>家族の来訪時に積極的に近況報告を行っている。また、変わったことがあれば、電話などで報告している。</p> <p>■利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。</p> <p>毎月請求書とともに、担当者が手紙や写真を同封し郵送している。また、ホーム便りを、4か月に1回家族に送付している。</p> <p>■心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告している。</p> <p>■金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。</p> <p>立て替え払いをしており、金銭の取り扱いは職員2名あたり、金銭出納帳には家族の確認印も取っている。</p>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>■家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。</p> <p>ユニットごとに3~4人の家族が参加し食事をし、話し合いをしている。4月には2ユニット合同で、家族と利用者が一緒に夕食するなど、家族間の交流も行っている。</p> <p>■苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。</p> <p>苦情は出ていないが、苦情に対応し、その課題を改善する体制がある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<p>■利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 ユニット間の異動はあるものの、退職者は少なく、退職した職員の復職もあり、利用者が安心して過ごすことができる体制となっている。</p> <p>■職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>■日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 年間の研修スケジュールを立てており、希望する職員は雇用形態に関わらず、ホームの費用負担で研修に参加している。</p> <p>■全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 担当者会や月1回の職員会等で報告し、報告書も整理して、職員はいつでも閲覧できるようになっている。</p>		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>■県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。</p> <p>■管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 管理者が、市の介護サービス事業所協議会の役員をしており、市のグループホーム部会の世話や事業所単位での講師をするなど、職員も含め交流をしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<p>■入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居時の事前調査票、家庭訪問等による家族や介護支援専門員からの聴取など、情報の収集に努めている。</p> <p>■本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 長時間体験できるように、昼食やおやつの時間に本人と家族と一緒に見学してもらっている。</p> <p>■入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 入居希望者には、管理者と職員が訪問して面接し、多角的・多面的に情報を収集している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>■日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。業務を優先することなく、利用者一人ひとりに個別に対応している。</p> <p>■支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 調理や洗濯は利用者と一緒にいるなど、共に暮らしていることがわかる和やかな雰囲気である。</p> <p>■利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 ごぼうの笹がきやお雛様の飾り方など利用者から習うことも多い。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>■一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 利用者の希望や意向を聞いて、センター方式の「思いのシート」に記載し、また、家族に「暮らしの情報シート」の記載を依頼するなど、把握に努めている。</p> <p>■意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得ようとしている。 馴染みの関係や信頼関係が構築されており、表情等で利用者の思いや意向を推測し、必要なサービスを提供している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>■本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。</p> <p>■アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 各ユニットごとに、毎月、職員全員が出席し、情報の収集、カンファレンス、モニタリングを行っている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>■介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 少なくとも3か月に1回見直すことにしているが、ほとんど毎月プランを見直し、家族にも説明してサインをもらっている。</p> <p>■本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。</p> <p>■ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<p>■医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。</p> <p>■重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 看取りの指針を作成し、過去に3人を看取っている。</p> <p>■特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 外出等は、利用者の思いを大切に、可能な限りその希望に沿うように努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援と協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>■いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。</p> <p>■受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。</p> <p>■受診結果に関する情報の共有ができています。 伝達ノートにより情報の共有をしている。</p>		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<p>■終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 看取りの指針を作成しており、必要に応じて、医師、看護師、家族等で話し合いを持つようにしている。</p> <p>■本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。 今までに3人を看取っており、最期は、在宅支援病院の医師、看護師が付き添い、家族にも納得してもらえる看取りを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<p>■人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。</p> <p>居室に入る時もノックをしてあいさつをするなど、日頃から、理念に掲げる「基本的人権の保護」を念頭に置いて、サービスの提供を行っている。</p> <p>■他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関することを話さないことを徹底している。</p> <p>■全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。</p>		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>■一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。</p> <p>近隣の商店やレンタルビデオ店に行くなど、希望があればすぐ出かけるなど、柔軟に対応している。</p> <p>■事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。</p> <p>ホームの大まかな1日の流れはあるが、利用者の気持ちを尊重し、個別性のある対応をしている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>■献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。</p> <p>利用者は、それぞれの能力に応じて食事作りに参加し、役割分担をしている。</p> <p>■職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。</p>		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<p>■利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。</p> <p>14時から21時まで、好きな時間に入浴できる体制をとっている。毎日入浴される利用者もあり、利用者の希望に合わせた対応をしている。</p> <p>■入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。</p> <p>入浴を拒否する利用者には、入浴の快適さを実感できるような声掛けをすとともに、清拭や足浴で対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を生かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<p>■何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者の情報や表情等から、その人の趣味や好みを把握し、何が楽しみや役割となり得るか判断している。</p> <p>■食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 八百屋を営んでいた利用者に細やかな野菜の飾り切りをしてもらうなど、持てる能力を発揮できる場面づくりに配慮している。</p> <p>■一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 アセスメントをし、それぞれの役割や楽しみごとを導き出している。また、近隣の農家からパブリカの袋づめや、食用菊の箱詰めを請け負い、作業を行うことが、利用者の生きがいにもなっている。</p>		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<p>■近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 馴染みの美容院や神社に行ったり、モーニングに行くなど、戸外に出かけている。</p> <p>■歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に 行っている。 ホームの敷地内ではあるが、戸外に出て散歩をしている。</p> <p>■日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 広い敷地内の散歩は日常化している。ドライブは月2回程度、近隣の商店にも買い物に出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<p>■居室や日中玄関に鍵をかけていない。 玄関にチャイムが設置されているが、施錠はなく、自由な生活ができる配慮をしている。</p> <p>■利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 一人での外出傾向がある利用者には、職員がさりげなく同行し、自由に外出できるよう支援している。</p> <p>■近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 近隣のアパートの住人、ハウスで農作業している人、商店の人などから連絡してもらえる関係が出来ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 年2回、定期的に防火訓練を行っている。地域住民の参加はないが、消防団員である職員数名が参加し、マニュアルも作成している。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常食料・備品を準備している。 ※視認する。 非常食等の備蓄はしていない。	○	災害時における地域の協力は不可欠な要素であり、地域住民の協力を得た災害訓練と、非常食料、備品を準備することを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 職員は、利用者一人ひとりの摂取量については把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 嗜好調査を行い、献立に反映している。四季の食材を取り入れるなどの工夫もしている。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 栄養士のチェックは受けていない。	○	ホームに配置されている保健師に、健康管理等だけではなく、献立のチェックもしてもらうことが望まれる。一人ひとりに適した栄養摂取量や水分摂取の大切さは理解しているが、記録がないので、職員全員が情報を共有するなどの観点から、記録として残すことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地の良い共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 トイレや浴室は清潔感があり、共有スペースは家庭的な雰囲気となっている。玄関脇では犬を飼っており、また、スロットマシンを置くなど、安心して楽しく過ごすことのできる空間づくりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 さくらの貼り絵や節分の写真を飾るなど配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 馴染みの家具を持ってきている利用者もおり、それぞれの居室は個性的で、生活感を感じることができるものとなっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		